

第6次総合計画 基本構想「めざすまちの姿」検討シート（⑤安全・都市基盤）

（1）市民ワークショップ「タカラ ミライ ラボ」提言書

| | |
|-----------------------|---|
| めざす まちの姿 | 若返る安全・快適 Let's 生き活きたからづか |
| 実現した ことを確認 する方法 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 人口の構成が若返って、まちの活力が維持されている。 ・ 住環境が向上する。 ・ 安全な生活ができています。 ・ いざという時でも安心できる体制が整っている。 |

（2）主な社会経済動向

人口減少と少子高齢化

- ・ 生産年齢人口（15～64歳）と子どもの数の減少
- ・ 高齢者の増加
- ・ 都市のスポンジ化（空き地や空き家がランダムに数多く発生）が進行
- ・ 空き家や所有者不明土地、耕作放棄地の増加が見込まれる
- ・ 中山間地域においては、集落機能の維持が困難になるような低密度化が発生するおそれ

公共施設の老朽化

- ・ 今後20年間で建設後50年以上経過するインフラ施設の割合が加速度的に増加

防災・治安

- ・ 地震や豪雨災害が多発。南海トラフ地震（M8～9クラス）の発生確率は、30年以内に70～80%程度。
- ・ 特殊詐欺など新たな形態の犯罪が増加
- ・ 救急搬送人員数は2035年まで増加する見込み

地域社会のつながり

- ・ 災害時の支援活動や防犯活動、子育て支援、環境美化など、住民同士が支え合う地域社会の姿が求められている

（3）主な宝塚市の現状認識や特性

人口減少と少子高齢化

- ・ 全市的に高齢化が進行
- ・ 西谷地区に加え、南部市街地においても人口減少傾向の地区が増加

防災・消防

- ・ 急病、一般負傷の救急出動件数が増加傾向
- ・ 自主防災組織の結成率は高止まりの状況、活動率は増加傾向
- ・ 市民の防災・減災の知識及び意識を育み、地域における自助・共助の取組を引き続き充実させていくことが必要

防犯・交通安全

- ・ 人口あたり犯罪発生件数は比較的少なく、減少傾向
- ・ 人身事故、死傷者数は減少していたが、近年は増加傾向
- ・ 市民アンケートの住み続ける理由上位「治安が良い」
- ・ 地域での登下校の見守りなどの取組により地域の安全・安心が確保

土地利用・市街地・北部整備

- ・ 住宅86.9%、商業6.9%、工業2.4%、村落3.8%で住宅・商業は増加、工業は減少傾向
- ・ 市民アンケートの市外転出の理由上位「買い物や余暇活動に不便」
- ・ 豊かな自然や住宅都市、観光文化都市としての特性を保有
- ・ 人口減少、少子高齢化時代に対応するため、公共交通手段を確保しながら都市機能を集約する都市づくりが必要

住宅・住環境

- ・ 持ち家世帯比率は高く、一住宅あたり延べ床面積は大きい
- ・ 住宅地平均地価は比較的低い
- ・ 市民アンケートの住み続ける理由上位「住環境が良い」
- ・ 市民アンケートの他都市より優れていること上位「優れた居住環境」
- ・ 地区まちづくりルールなどの活用により、地域の特性を生かした住環境の形成が必要
- ・ 誰もが住み続けたい、子育て世代が移り住みたいと思える住環境の構築や住まいへの支援が必要

道路・交通

- ・ 市民アンケートの住み続ける理由上位「交通の利便性が良い」
- ・ 市民アンケートの他都市より優れていること上位「公共交通機関が発達」
- ・ 市民アンケートの市外転出の理由上位「交通の利便性が良くない」
- ・ 渋滞が無く歩行者も外出しやすい安全で快適な道路環境の整備が必要
- ・ 市民の生活を支える公共交通手段の確保や安心して外出できる道路づくりが必要

上下水道

- ・ 水道普及率は99.9%、水洗化率（汚水）は99.8%
- ・ 安全でおいしい水道の安定供給と適正な下水処理が引き続き必要

（4）めざすまちの状態

| | |
|-----------------|--|
| （防 災 ・ 消 防） | （例）・自らを守り、地域で助け合う意識が高まり、地域の防災力が強化され、災害を想定した様々な対策が取り組まれ、いざという時でも安心できる消防・救急体制が整っている。 |
| （防犯・交通安全） | （例）・地域での様々な取組の中で、誰もが犯罪や交通事故のない安全・安心な暮らしを送っている。 |
| （土地利用・市街地・北部整備） | ・ |
| （住宅・住環境） | ・ |
| （道路・交通） | ・ |
| （上下水道） | ・ |

